

AD ALTIORA SEMPER

神戸市外国語大学 図書館報

vol. **61**

2025年6月30日
【編集・発行】
神戸市外国語大学
図書館



AD ALTIORA SEMPER (アド・アルティオラ・センペル) とは
ラテン語で「常により高きを求めて」という意味です



巻頭言 大学図書館と聞いて思うこと ... P.1

P.2 文中作品紹介

P.3 著書紹介

P.4 図書館アンケートの実施について
ほか

大学図書館と聞いて思うこと

国際関係学科准教授 森谷 文利

みなさんは大・二病をご存じでしょうか。ネットスラングの中二病になぞらえて、大学生にありがちな言動を私が勝手に呼んでいる言葉です。きちんと定義すると、中二病が「思春期にありがちな自己愛に満ちた空想や嗜好などを揶揄した言葉」(Wikipedia)であるならば、大・二病は「大学生にありがちな勉強したばかりの知識を振りかざし背伸びした言動などを揶揄したもの」です。きっと、この記事を読んでいる本学学生にも身に覚えがあるでしょう。覚えただけの中国語を日本語の日常会話で使ってみたり、日本語の外来語を妙に上手な発音でしゃべってみたり。図書館で外国語の原書を借りたまではよいけれど、貸出期限を延長した挙句に読み終わらなくて返却するのも「外大」あるあるです。

恥ずかしながら、分野は違えど私の大学時代もまさにそんな感じでした。愛媛から東京に出て都会の文化に圧倒された 18 歳の私は、難解で教養あふれる大学の講義にすっかり感化されてしまったのです。入学した立教大学の雰囲気もおあつらえ向きでした。ツタの絡むレンガ造りの建物が立ち並ぶキャンパスには丹下健三研究室が設計した図書館があり、オレンジがかった電球が照らす薄暗い閲覧室で、様々な本を読むことができました。試験前でない限り図書館はすいていましたから、人混みの喧騒が苦

手な私にとって格好の逃げ場でもあります。静謐な閲覧室で、どこからともなく聞きかじったアダム・スミス『道徳感情論』などの古典に触れてみたり、前提知識がない状態で読んだところでわかるわけはないのですが、ミシェル・フーコーの『言葉と物』を知って(読んでません)「ポストモダン」と言ってみたり、当時は複雑系が流行っていたので『自己組織化と進化の論理』を眺めては(読んでません)、「要素還元的な方法には限界がある。これからの時代は複雑系だ」とか言ってしまうわけです。

大学生というと村上春樹の小説で、大西先生のように「大学生になれば自分も海にビール缶を投げ込み(注: 投げてはいけません)、警官と揉め(注: 法律は守りましょう)、パスタを茹でる合間に読書し、女の子の会話に『やれやれ』だの『素敵だ』などと相槌を打つ魅惑的な 4 年間を過ごせるもの」(本誌第 49 号巻頭言)とは思ってはいなかったけど、お恥ずかしながらそんな大学の雰囲気にあこがれていました。愛媛出身の田舎者だからかもしれませんが(愛媛出身の方ごめんさい)。まさに大・二病でしかも重症です。

こうした黒歴史あふれる大学時代からずいぶん経って、教養が足りない私であっても、少しは大・二病から脱却したつもりではいます。本を読んでわからなくても背伸びしないであるがままに受け止められるようになりました。このあたりは、衣川先生の「わからない本のすすめ」(本誌第 53 号巻頭言)をぜひとも読んでください。加えて、おすすめしたいのは比較して読むです。大学生時代にわからない原因の一つは、自分の中に経験や常識が蓄積していないので(物心ついて 10 年ほどでは当たり前です)、評価基準がはっきりしていないからだと思います。小学校の読書感想文の課題のように、読んだ後に「ふーん。そうか」としか思わず感想が生まれな



写真1

写真2

<当時の立教大学図書館。
現在は2014年に立教学院展示館に改装されている>
出典：立教大学ホームページ

<https://www.rikkyo.ac.jp/campuslife/facilities/ikebukuro/hfr.html>

<https://www.rikkyo.ac.jp/research/institute/hfr/>

いのはこれが原因です。そんな時におすすしたいのは同じテーマで複数の本を読むことです。

例えば、最近読んだ本として、竹倉史人『土偶を読む』と望月昭秀『「土偶を読む」を読む』の二冊があります。あまりにこの組み合わせが面白かったので、グローバルでも現代的課題でもないのに授業「地球市民社会論 1」の第一回目で紹介してしまい、一部の方から顰蹙をかっています。竹倉氏の『土偶を読む』は土偶のユニークな造形の謎に迫ろうとした一冊で、ハート形土偶はオニグルミを、カックウ（中空土偶）はクリをモチーフにしたものである、と主張しています。この本を最初に読んだ時、あげられる数々の証拠と著者の文章力に圧倒され、深く納得しました。ところが、望月氏の『「土偶を読む」を読む』を読むと、多角的な検討によって竹倉氏の説得力があつという間に失われ、二冊の本の間で右往左往することになりました。私はこの分野の専門家ではないのでどちらが正しいかを判断する能力はありません。しかし、だからこそ同時に読むことで多角的な検討（学問）の重要性を感じられます。

もう一つ例をあげましょう。数年前にゲーム理論の教科書を書く機会があり、既に出版されている本を読むことがありました。教科書というと皆さんは分野ごとに一冊の本で勉強するというイメージかもしれませんが、比較すると個性の違いに驚きます。渡辺先生の『ゼミナール ゲーム理論入門』は、概念

の説明以外にも計算過程が詳細かつ丁寧に記述されています。岡田先生の『ゲーム理論・入門』では複雑になりがちな内容を簡潔で平易な言葉で説明しており、分量的にも教科書に指定しやすい一冊になっています。いずれも非常に優れた教科書ですが、それぞれの特徴に合わせ、岡田先生の教科書で全体をつかみ渡辺先生の本で詳細な理解をめざすなど、複数の本を読むことで理解に広がりができます。ちなみに、我々の教科書はこうした背景もあって、理論を事例分析に活用することをウリにしています。

ここまで 30 年近く前の私の黒歴史を紹介しながら、大二病の処方箋についてご紹介してきました。この原稿自体が 20 年後には黒歴史になっているかもしれませんが、皆さんにもぜひとも大二病に罹患していただき、大学図書館の深淵を覗いていただければ嬉しく思っています。



写真3
＜ハート形土偶：群馬県吾妻郡東吾妻町郷原出土＞
出典：ハート形土偶 - Wikipedia

■ 文中紹介作品(図書館所蔵)

- アダム・スミス.2003.『道徳感情論』上・下(水田洋訳) 岩波書店.
(請求番号: N080=14=105-6, N080=14=105-7)
- ミシェル・フーコー.1974.『言葉と物：人文科学の考古学』(渡辺一民,佐々木明訳) 新潮社.
(請求記号: N135.5==10B,10C,10D)
- スチュアート・カウフマン.1999.『自己組織化と進化の論理：宇宙を貫く複雑系の法則』(米沢富美子訳) 日本経済新聞出版. (請求記号: N080=30=6-27-1)
- 竹倉史人.2021.『土偶を読む』 晶文社.
- 望月昭秀編.2023.『「土偶を読む」を読む』 文学通信.
- 浅古泰史,図斎大,森谷文利.2023『活かすゲーム理論』 有斐閣
- 岡田章.2014.『ゲーム理論・入門：人間社会の理解のために』 有斐閣.
- 渡辺隆裕.2008.『ゼミナール ゲーム理論入門』 日本経済新聞出版. (請求記号: N331.19==254)



中国人の「顔」が見える 現代中国入門書

中国学科准教授

上野 正弥 (うえの まさや)

『中国のリアル： 人々は何を悩み、 何を追い求めているのか』

兪敏浩編著

晃洋書房、2023.4発行

図書館所蔵：N302.22==483



私が初めて中国を訪れたのは、高校1年生の時のことである。私の故郷である栃木県が中国浙江省と友好都市関係を結んでおり、私は高校生友好交流派遣団の一員として浙江省杭州市の一般家庭に1週間ほどホームステイをした。「安い自己負担金で海外に行けるなら」というたわいない理由で試しに応募してみたら運よく選ばれたのであり、特に中国に強い関心を持っていたわけではなかった。当時(2001年)の私が知る中国といえば、経済的には躍進している一方で、小泉首相の靖国神社参拝や日本の一部の歴史教科書の記述に強く反対しているといった程度のものであった。大手メディアが取り上げる政治・経済の話題以外のことはまったく知らず、「よく分からない国」という認識であったと思う。

そんな状態で中国へ行った私であったが、実際に滞在してみると、興味をひくことにたくさん出会えた。現地の高校では、制服ではなくずっとジャージを着て授業を受け、昼休みには校内放送の号令に合わせて目元のマッサージをする生徒たちとの交流を楽しんだ。日本文学、特に川端康成の作品が好きだという生徒とやりとりしたり、中国人教員が英語を使って進める英語の授業に参加したりした。メディアが伝える中国像からは知りえない中国の人々のリアルな側面に、わずかではあるが触れることができた。

私の中国初訪問から20年以上経ったが、

日本人が普段触れることができる中国像は、当時からさして変わっていないように思う。中国の経済動向や政府の政策、外交問題、さらには中国共産党内部の権力闘争などは盛んに報じられ議論されるが、その政治・経済環境の下で暮らす中国人は何を思い、どんなことに苦悩し、何を追い求めているのかといった点は、十分に伝えられているだろうか。この20年あまりの間に、現代中国に関する書籍が多く出版されてきたが、それらの書籍を読んでも、中国で暮らす人々の「顔」はなかなか見えてこないのではないかと。

そんな問題意識を共有する研究者たちによって著されたのが本書である。一党支配体制、社会主義市場経済といった制度の下で、若者、中小企業主、ボランティア活動に勤しむ人々、退役軍人、社会的弱者としての女性や性的少数者の人々は、何に苦しみ、何を追い求めているのか。こうした個別具体的な問題を切り口として現代中国にアプローチすることで、20年あまり前の私と同様に、中国のリアルな側面に触れ、それをきっかけに中国の政治体制や社会構造などを探求する道に入っただけならば、望外の喜びである。ちなみに私は、中国のクリスチャンが今日までのような政治環境の下で信仰生活を営んできたかについて論じている。詳しくは、本書第5章をお読みいただきたい。

図書館アンケートの実施について

2024年11月から12月にかけて、図書館アンケートを実施しました。前回実施した2018年度に比べ、学生の回答数が216件から264件に増加（22%up）しました。ご協力いただき、ありがとうございました。

回答期間

2024年11月4日（月）から12月1日（日）

回答方法

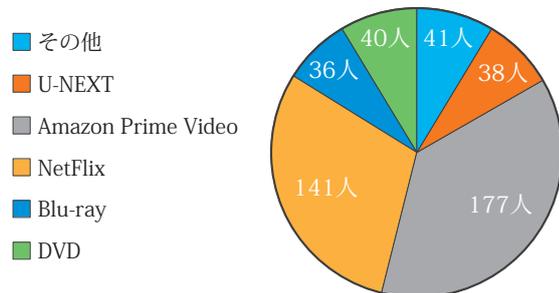
GAIDAI PASSアンケート回答フォームから回答

対象

学生・教員・職員

動画配信サービスとしてAmazon Prime（177名）よりも高額となるNetflix（141名）の利用者が多いことに驚きました。（図1）

図1 「自宅で映画などの映像作品を視聴するときは何を利用しますか」回答



DVD（40名）やBlu-ray（36名）といった物理メディアでの視聴が減り、動画視聴環境の変化を実感する結果となりました。図書館では、動画配信サービス

で提供されていない映画タイトルも所蔵している場合があります。学内PCから蔵書検索システムでタイトルを検索し、視聴覚ブースで見ることができます。^{*1}

また視聴覚資料のほか、データベースや電子ジャーナル、図書館間相互貸借制度（ILL）を利用したことがないという意見が目立ちました。データベースや電子ジャーナルは大学が有料契約しているもので、卒業すると利用できなくなります。論文を探す以外にも、新聞記事や海外雑誌も閲覧できます。^{*2}

図書館間相互貸借制度について、他大学の図書館からの取り寄せは有料ですが、神戸市立図書館の図書は無料で取り寄せることができます。是非ご活用ください。^{*3}

2024年度からBYOD（Bring Your Own Device）型授業の本格導入となり、パソコンを利用する上でのWi-Fiエリア拡張、コンセントの増設といった要望が多く寄せられました。これまで閲覧室をサイレントエリアとし、資料閲覧用のスペースとしていましたが次期情報基盤更新時に見直したいと思います。

アンケート結果をもとに、よりよい図書館になるよう努力してまいります。

今後も引き続き、図書館運営へのご理解とご協力をお願いいたします。

*1 <https://www.kobe-cufs.ac.jp/library/guide/audio-visual.html>

*2 <https://library.kobe-cufs.ac.jp/opac/myopac/gateway/>

*3 <https://www.kobe-cufs.ac.jp/library/guide/ill/index.html>

図書館日誌

《2025年1月～2025年6月》

- 2025年 1.26/2.2 日曜開館日
（後期定期試験期間のための臨時開館）
- 3.21-31 蔵書点検
- 3.27 国立国会図書館よりレファレンス協同データベース年間登録お礼状を受領
- 4.7 JLPオリエンテーション
- 4.11-5.20 前期図書館利用ガイダンス実施
- 4.14 ラーニングアドバイザー（LA）による対面学習相談の受付開始
- 5.14-30 Azouz Begag氏講演会展示
- 6.3.4 トライやるウィーク（1校1名受入）

AD ALTIORA SEMPER vol.61

神戸市外国語大学図書館報 第61号

ISSN	0919-2336
編集・発行	神戸市外国語大学図書館
	〒651-2187 神戸市西区学園東町9丁目1
	TEL：078-794-8151 / FAX：078-797-2257
	URL：https://www.kobe-cufs.ac.jp/library/
発行日	2025年6月30日
発行責任者	図書館長 竹越 孝